

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その73

文：樽井 清市

えぞ 蝦夷神社

「蝦夷神社」。この名前を聞いたことがある人はなかなかいないと思います。それもそのはず、図書館で全国の神社を調べてみましたが、今のところ、2カ所しかその存在を確認できませんでした。その1つが黒沢自治区にあります。

黒沢の蝦夷神社については、古文書『野沢郷每村委記』に祭神は日本武尊、「黒沢村 蝦夷大権現ノ祠有り、是ハ源義経公ヲ祭ル相伝ニテ曰ク、義経公ノ臣某、文治ノ頃（1185～1190年）此ノ所ニ忍漂泊メ暫蟄居ス此ノ人祭ヤ」と記されています。源義経は兄の頼朝から追われる身となり、一行は二手に分かれ平泉を目指しました。その中の家来・鈴木三郎重家は一足遅れで西方街道の杉峠を越え、黒沢の蝦夷大権現にて、義経と家来の安全と武運を祈願し、義経拝領の刀を祀ったとされています。文治5年（1189）、藤原泰衡は頼朝の再三の圧力に耐えかね、義経を襲い自害に追いやると、鈴木三郎重家は再び黒沢の地を訪れ、亀井六郎とともに蝦夷大権現に義経を祀りました。

また、黒沢の鉱山開発に貢献した坂内利三郎が享保6年（1717）、「蝦夷大権現 鉱師坂内利三郎」と書かれた社額を奉納し、現在も保管されています。その後は、延享元年（1744）に、野沢の大工であった橋谷田吉兵衛により社殿が建立し、名前も「蝦夷大権現」から「蝦夷神社」に変え、神社の紋章（神紋）も義経ゆかりの笹竜胆（清和源氏直系の家紋）になりました。

ちなみに、黒沢以外のもう1つの蝦夷神社は、山形県南陽市にあります。明治25年発行の『赤湯温泉誌』によると、場所は大字三間通りで、「安倍ノ貞任を祀る」と書かれています。



現在の蝦夷神社



坂内利三郎が奉納した社額

今月の表紙

今月の表紙は、3月25日に満100歳の誕生日を迎えられた大堀ハナイさんとそのご家族。少し恥ずかしそうにはにかむハナイさんの表情が素敵です。（フジに関連記事）



編集後記

このたび、4月の人事異動により新たに「広報にしあいづ」を担当することになりました。初めての異動、初めての仕事内容にまだまだ戸惑うことばかりですが、周りの先輩方に助けていただいで5月号を発行することができました。取材を通して、西会津町の素敵なひと、もの、場所を町内外の皆さんへ発信していきますように頑張ります。1年間よろしくお願ひします。

広報広聴係 伊藤 悠花